

第4学年 道徳学習指導案

日時 平成16年 11月 9日(火) 授業
学級 4年1組 男16名 女 15名 計31名
授業者 坂本 有子

総合単元名 見つめよう 高めよう 10才のわたし

総合単元のねらい

自分でやろうと決心したことは粘り強くやりとげようとする心情を養う。

総合単元的な道徳学習の構想について

4年生の子どもたちは、自分の興味関心の向くことには精一杯取り組み元気に活動することができる。また、目新しい活動や楽しいことには目を輝かせて取り組む反面、地道に取り組まなければならないことや自分の苦手なことに目を向け、自らを高めようとする子は少ない。しかし、自分の趣向に左右されず全体のことに目を向け客観的に考えられるようになってきている子どもが見え始めているこの時期に、自分を振り返り、どんなことが何のために必要で大切なのかを考え、自分を高めるために努力しようとする実践的態度へ結び付けていきたいという願いから、本単元を設定した。

本単元では、「出会う」の段階でオリエンテーション「自分を高めよう - 行動で示そう - 」や学級活動で個人のめあてを振り返り、道徳の時間で「自分でできることは自分でやろう」とする気持ちをもたせ、「深める」につなげていきたい。「深める」の段階では、自分の苦手とすることにもあきらめずに辛抱強く取り組むことの大切さに気付かせ、自分の目標に向かって努力しようとする心情を育ていきたい。それをもとに「生かす」では、今の自分を高めようと苦手とすることを克服するためのめあてや更に力を伸ばそうとすることためのめあてを立て、逃げずに努力して取り組んでいこうとする実践的態度を育てていきたい。

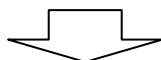
子どもたちの節度ある生活・不とう不屈にかかわっての実態について知るために、意識調査を行った。結果は、以下の通りである。

「節度のある生活・不撓不屈」に関する調査		調査人数(62名)
1	あなたの部屋やつくえは、きれいにかたづいていますか。	
	いつも片付いている。 まあまあ片付いている。	51人
	あまり片付いていない。 いつも片付いていない。	11人
2	自分から進んでやっていますか。	
	いつも進んでやっている。 ときどきする。	54人
	ほとんどしない。 しない。	8人
3	苦手なことはありますか。	
	はい	49人
	いいえ	13人
4	それはどんなことですか。	
	勉強(漢字、計算、楽器・・・) 手伝い(茶わん洗い 風呂掃除・・・) 運動(跳び箱、鉄棒・・・) 発表 忘れ物 片付け 食べ物(好き嫌い)	
5	それに対して努力したことはありますか。	
	ある	52人(ア 努力し続けた 39人・イ 途中であきらめた 13人)
	ない	8人
6	それはなぜですか。	
	ア できるようになりたい。 弱い心のままだとどんどん弱くなるから。	
	イ どうせだめだから。 面倒くさい。	

意識調査の結果から、片付けが大体できているとなっているが、子どもたちの学校での実態や保護者の話から判断すると子どもの認識が甘いことが見えてくる。

総合単元の構想

段階	時期	意識の流れ	教科	特別活動	日常生活	家庭・地域
出会う	10月 2週	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を振り返ろう。 ・成人までの半分になった。 ・来年は高学年、胸を張ってなりたい。 		オリエンテーション 心のノートp20～21 <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を見つめ、これからのことを考えさせる。 		
	10月 4週	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは、しっかりやろう。 		体育 持久走 <ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会のめあてに向けて取り組ませる。 	学級活動 「できること探しゲーム」 <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を振り返り自覚させる。 	
深める	11月 1週	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でめあてを決め、がんばるぞ。 				
	11月 2週	<ul style="list-style-type: none"> ・金メダルを目指してがんばろう。 ・がんばってよかった。これからもいろいろなめあてに向かってがんばろう。 		学級活動 「めあての振り返り」 <ul style="list-style-type: none"> ・自分を高めるために目標をもってチャレンジさせる。 	心のノートp23 「やりとげられたら金メダル」 <ul style="list-style-type: none"> ・めあてに向かって取り組ませる。 	
生かす	11月 3週	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとがんばれる自分になりたいな。 ・夢をかなえるためにがんばろう。 		作文メモ <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の思い出、将来の夢に取り組ませる。 		
	12月 1週				10才を祝おう 1/2 成人式 これまでの自分のがんばりとこれからの自分の夢に向かって取り組ませる。	



もっとすばらしい自分になるために、めあてをもってやりとげようとする子ども

本時の指導

- 1 主題名 くじけず最後まで 1 - (3) 不とう不屈、努力
- 2 資料名 「ぼくのへんしん」 (出典 :「ゆたかな心で」 東書)

3 ねらい

自分でやろうと決心したことは、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

指導内容高学年の1 - (3)は、「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」と示されている。これは困難や障害に出会ったとき、すぐ音をあげたり、途中で投げ出したりするのではなく、それを乗り越えて粘り強くやりぬこうとする心情を目指していこうとするものである。

人間が生きていく過程には、いろいろなめあてがある。大きな人生の目標から、日々の生活の中での小さなめあてまでさまざまである。そのめあてのほとんどは、何の障害もなしに達成できることない。困難なことに打ち勝ちながら、自分の決めためあてに向かって粘り強くがんばろうという気持ちをもつことが大切である。

そこで、本時では「深める」段階の「道徳の時間」として、自分でできることは自分でやらなければならないという思いを単なる思いにとどまらせるのではなく、自分でやろうと決めたことを辛抱強くやり抜こうと努力するすばらしさを学び取らせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

児童は、好きなことや得意なことに対しては熱中してやり続けるが、嫌いなことや苦手なことに対しては進んで取り組むことは少ない。しかし、何のために、なぜそれが必要なのかという目的を理解できるようにはなっている。アンケートで「苦手なことに対して努力し続けている」と答えている子どもの実際の取り組みの様子をみると、取り組みへの力の入れ方にむらがあるように思われる。そして成果がなかなか見えないとその傾向は顕著に現れるように思われる。しかし、これは子どもに限らず努力し続けることの難しさである。自分の目標に向かって努力することの大切さに気付かせ、自分でやろうと決心したことは粘り強くやりとげようとする気持ちを育てたい。

(3) 資料について

本資料は、運動が苦手で体育が嫌いな主人公が家族の励ましによってテレビ体操を始め、第一の目標を達成する。そして、第二の目標を目指して毎日足かけ後転の練習をしてできるようになり、友達から「へんしんしたのでえす」と称賛される話である。自分で決めたことでもなかなか思うようにいかないとあきらめたり、逃げ出したりしたくなることがあるが、あきらめずに続けて取り組むことで達成できるようになることもあり、努力し続けることが大切であるということに気付かせることができる資料であると考えられる。

5 「心に響く道徳の時間」における指導法の工夫（仮説...手立て2とのかかわり）

ねらいに迫るために、次のような手立てを考えた。

< 総合単元よさを生かした導入の工夫 >

- ・これまでの自分を振り返り、ねらいとする価値への方向付けとしていきたい。

< 発問の工夫 >

- ・発問ごとに児童を意図的に指名し、自分のこととして受け止められるようにしたい。

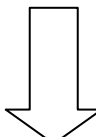
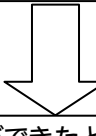
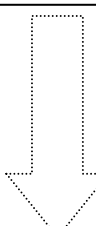
< 心のノートを取り入れた終末の工夫 >

- ・終末で、子どもの作文を紹介し、今後の取り組みに生かしていきたい。

6 資料分析

場面	登場人物の心の動き	子どもの意識	発問の意図・発問
<p>自分の部屋ができとても嬉しくなり、後片付けやそうじを自分でやるとお母さんと約束した。</p> <p>1ヶ月たち、部屋が汚れてきても一向に片付けをしないため、とうとうお母さんに叱られた。</p> <p>良夫の部屋に入ってドキッと、自分がはずかしくなった。</p> <p>良夫から、次は洋太の家で遊ぼうと言われて困ってしまった。</p>	<p>(洋太)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋ができうれしいな。 ・自分の部屋は自分できれいにしよう。 ・言われたことはちゃんとしよう。 ・片付けなんて簡単。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・後でやるよ。 ・面倒くさい。 ・うるさいな。 ・自分の部屋なんだから好きにしたっていいじゃないか。 ・やらないといけないかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・良夫君の部屋はきれいだな。 ・ぼくの部屋とはちがう。 ・自分できれいにしたのかな。 ・良夫君は自分できれいにしてすごいな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったな。 ・やばい、片付けなきゃ。 ・自分の部屋は自分でちゃんと片付けよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の部屋はいいな。 ・自分の部屋だからちゃんと片付けた方がいいな。 ・片付けは簡単にできそう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで汚くなるなんて。 ・片付けるのって面倒だな。 ・自分の部屋なんだからいいじゃない。 ・お母さんに言われたからちゃんと片付けた方がいい。 ・約束したのに。 <ul style="list-style-type: none"> ・良夫君の部屋は洋太の部屋とちがう。 ・お母さんが片付けたのかな。 ・良夫君が自分で片付けているなんてすごいなあ。 ・洋太は自分でやっていないな。はずかしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・大変だ。 ・早く、片付けた方がいい。 ・自分の部屋は自分で片付けなきゃ。 ・自分のことは自分でやるう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の部屋ができうれしくなり、軽い気持ちでお母さんと約束をしたことを捉えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>あと片付けや掃除を自分でやるように言われ、洋太はどんな気持ちだったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・片付けるのは面倒で動かない様子と自分の部屋なんだからいちいち口を出してほしくないという洋太の気持ちに共感させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>お母さんに怒られたとき、洋太はどんな気持ちだったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・良夫が自分の部屋を自分で片付けていると知り、自分は片付けをしていないことがはずかしいと気付く洋太の気持ちをつかませる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>洋太はどうして、自分がはずかしいと思ったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・困ってしまった理由から洋太がこれからどうしていったらよいか考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「うちは、ちょっと・・・。」の後、良夫はどんなことを考えたでしょう。</p> </div>

7 展開

段階	学習の流れ	予想される児童の反応	支援の手立てと評価の観点
導入 5分	1 めあてを決めて取り組んできたことで途中でやめてしまったことの経験を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 帰ってもすぐ宿題をしないことがあった。 マラソン大会の向けてがんばろうと思ったけど、しっかり走らないことがあった。 すぐ机の中がぐちゃぐちゃになってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでめあてを決めて取り組んできたことをあげ、ふり返らせることで、ねらいとする価値への方向付けを図りたい。
展開 前段 27分	2 資料「ぼくのへんしん」を読んで話し合う。 お母さんの言葉を聞いたとき、雄志はどんなことを考えたのでしょうか。  「お母さん、空が見えたよ。」と叫んだとき雄志はどんな気持ちだったでしょう。  足かけ後転ができたとき、雄志はどんな気持ちになったでしょう。  「雄志君はへんしんしたのでです。」と言われたとき、ぼくはどんなことを考えたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 下手なのに上手なふりをしていた。 みんなに合わせて残念そうな顔をしてごまかしていた。 がんばってみよう。 一生懸命練習したらできた。 うれしい。次もがんばるぞ。 教えてもらったように練習したらできた。 何回も練習したからできたんだ。 自信がついた。 ようし、みんなの前でもがんばるぞ 続けて練習してきてよかった。 ぼくもあきらめないでがんばればできるんだ。 気持ちいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 雄志の体育に対する気持ちを押さえ、お母さんの言葉で、自分が苦手なことから逃げ出していたことに気付いたことをとらえさせたい。 21日間がんばり通したことからできた嬉しさとともに、次への意欲につながったことを押さえさせる。 何度も挑戦して目標を達成し、喜びと満足感とともに自信をもてたことをとらえさせたい。 できなかったことができただけでなく、苦手なことをがんばり続ける強い心になったことに気付かせたい。 (評) あきらめずに続けたことで達成できたことをとらえることができたか。
展開 後段 8分	3 本時の価値に照らして、これまでの自分の生活を振り返る。 今まで続けようと思って努力して続けられたことや続けられなかったことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を毎日しっかりやった。 廊下の歩き方では、つい走ってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳ノートに記入し、今の自分を振り返らせる。 (評) 苦手なことにもあきらめずに取り組もうとする気持ちがもてたか。
終末 5分	4 友達の作文を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 取り組みをがんばることで成果を上げた友達の作文を紹介し、今後の実践の意欲付けを図る。

8 評価

自分でやろうと決心したことは、粘り強くやり遂げようとする心情をもつことができたか。

